に寄生をのばすが之を生の年の秋には漸次尖端に向つて枯死する事が多い。この枯死部上には多数の菌類が棲息する事があるが之は *Phoma cryptomeriae* Kawamura, *Macrophoma sugi* Hara 等が認められる。スギタマバへは、杉の北側と南面とでは虫瘤の形成には差は認められなかつたが、北面が概して多くの枯損をしているのはこれ等スギ赤枯病菌の影響も考えられる。寄生後二年目には一年目の枯死部が少し下方に拡がる程度である。本虫の寄生のために完全に枯死に至った杉は認められないが、被害が毎年続く場合幼令林の生長阻害は厳酷である。尚神楽の跡地を起こさしている事は特に注意すべきである。苗圃に於ては其の年の挿木苗には、スギタマバへの寄生は極めて稀であるが新芽の伸びる時期に関係のあるものと思われる。前年度スギタマバへの寄生を受けた母樹の穂を挿したものは枯損が甚だしく著しく得苗率を減じている。一本の杉の被害を高さ別に調査すると樹高20 cm の孤立木でも頂上まで被害が及び樹の高さに対するスギタマバへの寄生率の関係は $r = -0.762$ で表わされた。即ち強度の負の相関が存している。

(3) スギの抵抗性品種

各地を調査してみると、スギタマバエの激害林の中に全然被害を被っていない杉に遭遇する事が屢々であるが、本場白男スギ品種別造林試験地及び福山町長谷県有林スギ品種別植栽地で虫瘤形成の有無について調査した結果では

(イ) スギタマバへのゴール形成を認めない品種は、おび枝長、福山赤、助右エ門（坂川杉）、おび赤、である。おび赤は極めて稀れにゴールがあるが、普通は認め難い。

(ロ) ゴール形成の著しい品種、即ち被害の著しいものは、おび黒、めあさ、いんすぎ、黄心、等である。

(ハ) 半黒、西園、吉野、おび荒皮、等は多少の被害がある。

鹿児島県地方に於けるすぎごばいしばえ（すぎのたまばえ）の生活史と駆除

林試熊本支場　小田久五
岩崎厚

鹿児島県地方に発生せる本害虫の調査を行つているが、生活史及び殺虫剤使用による駆除法として次の結果を得た。

1. 成虫の発生期間は4月上中旬より下旬、最盛期は4月中旬
2. 成虫は成長をやゝ停止せる杉の春芽の針葉の間に産卵する。
3. 葉の間で孵化せる幼虫は葉肉の中に喰入る葉内を喰害する。このため被害葉には寄生部に虫瘤が形成され、5月下旬より6月上旬で被害を受けた芽は生長を停止し、9月より12月の間に枯死する。
4. 幼虫は5月より10月の間に虫瘤内で生活し、10月上中旬より11月の間に地上

に落下し土壌内1～2cmの深さで越冬する。3月中旬より4月に羽化する。

5. 成虫の産卵は夕刻より薄暮の間が最も盛で、雌成虫の生存期間は数日間なり。

次に成虫の発生期を対象として、被害林地の地表部にBHC 1%粉剤を撒布した結果

1. 成虫の発生期を対象とした殺虫剤撒布の適期は4月上旬より中旬の中頃
2. 撒布量は一町歩当りBHC 1%粉剤70～80Kgで適期に撒布せる地区は駆除効果80%～100%
3. 駆除費一町歩当り約5,000円を要す。但し薬剤代、人夫賃、燃料代で撒布機購入費及び雑費は含まず。
4. 撒布に使用せる撒布機は共立式背負動力撒粉機

苗畑に於ける根切虫駆除試験（予報）

苗畑に設置せる青色蛍光誘蛾灯によるコガネムシ類の誘引経過

林試熊本支場　小田久五
倉永善太郎

九州管内8営林署所属の苗畑8ヶ所に青色蛍光誘蛾灯を設置し根切虫駆除に必要な資料を得る目的で本年4月1日より11月3日を点灯期間として調査した結果、佐賀、大分、川内の各営林署の苗畑に於ける資料より次の事が判明した。

1. 蛍光灯に誘る主な種類はヒメコガネ、サクラコガネ、ドウガネブイブイ、ヒメサクラコガネ、アカビロウドコガネ等で全国各地で実施している調査結果と略同じである種類の総数は33種で、その中には南方系の種類及び種名未定のものも若干あり。
2. 誘致期間は4月上旬～10月下旬で中でも7月下旬～8月下旬の間が最も多い
3. 蛍光灯に誘致出来ない種類としてはマメコガネ他、カナブン類、ハナムグリ類、等で苗畑の周辺に於いて採取出来る。
4. 設置ヶ所の被害発生状況を調査中なるも、根切虫駆除法としての蛍光灯設置の可否については明らかに云えないが、蛍光灯を設置する事により、コガネ虫類の誘致を来し苗畑全体の被害が増加する事は無いものと推定する。

マツノトビイロカミキリ被害の一調査

長崎縣技師　今村正治
仝　竹野忠生

一、調査の目的

所謂松くい虫の中でも最も猛威と言われている、マツノトビイロカミキリについては時期的の差はあるが、現在行われている剥皮焼却駆除法で駆除した場合材中に潜入していた幼虫はそのまゝ越冬し翌年成虫となつて飛び出るものがかなりの数に上ると考へら